第１７５回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成３０年１１月２２日提出）

１．題　目：長崎大学メンタルヘルス講演会

２．日　時：平成３０年１１月７日（水）１６：１０～１７：４０

３．場　所：長崎大学文教スカイホール

４．主　催：長崎大学学生相談支援等協議会

５．対　象：全教職員及び学外者

６．長崎大学ＦＤに関する申合せ第２第１項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
オンラインゲームやテレビゲームのやり過ぎにより日常生活に支障が出る「ゲーム依存症」を，2018 年，世界保健機関（WHO）が病気として認めました。ネットゲームに沈溺するあまり，不登校や退学など修学上の問題が生じることも珍しくありません。その一方で，友達ができないことを悩む大学生が，ネットゲームを通じて，友人ができるようになったといった事例もあり，適切な利用とは何かを考えさせられます。
ネットゲームの適切な利用とは何かを考えることは，各教員の教育活動において，学生の修学をサポートするのに役立つものとなります。
また，職員等を講演会に参加させることで，メンタルヘルスに関する教職員全体の認識の向上にもつながるものと考えます。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）
構成：講演－90 分（質疑応答含む）
［題目・担当講師］
題　　目：ネット社会と若者の行動～依存から自立へ～
担当講師：佐賀大学保健管理センター　佐　藤　　武　教授

９．参加者：３８名

（内訳）

所　　属	人　　数
教育学部	1
経済学部	1
病院（技術補佐員）	1
保健・医療推進センター	9
ＩＣＴ基盤センター	1
留学生教育・支援センター	1
ダイバーシティ推進センター	2
やってみゅーでスク	1
障がい学生支援室	3
学生支援部	6
学術情報部	1
文教地区事務部	2
経済学部支援課	1
学外者(大学教職員，学生)	2
学外者(小・中・高・教職員)	3
学外者(県・市・町職員)	2
学外者(その他)	1
計	３８

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）

平成30年度メンタルヘルス講演会　アンケート集計

1. 対象及び回収率

	長大教職員		外部		計	
参加者数	30		8		38	
回収数/回収率	23	76.7%	6	75.0%	29	76.3%
教育職員	7		－		7	
事務職員	9		－		9	
技術職員	7		－		7	
その他	0		－		0	
大学教職員	－		1		1	
小・中・高校教職員	－		3		3	
県・市・町職員	－		1		1	
その他	－		1		1	

2. 昨年のメンタルヘルス講演会に参加されましたか

	男	%	女	%	計	%
参加した	8	57.1%	6	40.0%	14	48.3%
参加しなかった	6	42.9%	9	60.0%	15	51.7%
未記入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	14		15		29	

3. 参加動機について（複数回答可）

	男	%	女	%	計	%
自分自身や家族のため	1	5.0%	3	13.6%	4	9.5%
仕事上必要なため	11	55.0%	10	45.5%	21	50.0%
メンタルヘルスに関心があるから	4	20.0%	7	31.8%	11	26.2%
社会的関心が高まっているから	3	15.0%	2	9.1%	5	11.9%
その他	1	5.0%	0	0.0%	1	2.4%
計	20		22		42	
実数	14		15		29	

4. 講演会をどのようにして知りましたか（複数回答可）

	男	%	女	%	計	%
長崎大学ホームページ	5	27.8%	6	35.3%	11	31.4%
ポスター	2	11.1%	0	0.0%	2	5.7%
Eメール	0	0.0%	1	5.9%	1	2.9%
担当者からのすすめ	4	22.2%	2	11.8%	6	17.1%
上司からのすすめ	2	11.1%	1	5.9%	3	8.6%
友人から誘われて	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
小・中・高校からの通知	0	0.0%	2	11.8%	2	5.7%
部局からの通知	5	27.8%	4	23.5%	9	25.7%
その他	0	0.0%	1	5.9%	1	2.9%
計	18		17		35	
実数	14		15		29	

5. 講演の内容はあなたの期待に合っていましたか

	男	%	女	%	計	%
期待した内容でとても良かった	8	57.1%	4	26.7%	12	41.4%
まあまあ良かった	5	35.7%	10	66.7%	15	51.7%
期待に添わなかった	1	7.1%	1	6.7%	2	6.9%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
未記入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	14		15		29	

平成30年度メンタルヘルス講演会　アンケート集計

6. 今後メンタルヘルスに関する講演でどのような内容を希望しますか

・いじめ防止のための環境作りについてなど
・ゲーム依存を改善させる方法・対策などの事例があれば知りたいです
・完全、場面緘黙の子どもに対する知識・対応
・発達障害への対応策を次回は聞きたい
・さまざまな依存症・依存に関する内容
・アルコール
・健康づくり、減量方策（ダイエット）、フィットネスなど教職員・学生が興味を持てる内容にしてほしい
・LGBTに関すること
・鬱に関すること
・職場でのメンタルな問題のとらえ方
　復職したが・・・なかなか思うように元に戻らない・・・等にどう対応すれば良いのか？
・SNSに関する問題（ツイッターなどの問題、就活などの悩み、裏アカウント etc）
・今回のように今の大学生が抱える問題をとり上げていただければ
・障がいを持った学生と教職員との関わり方

7. 感想・意見等を自由にお書きください

・発達障害についての話も聞けてよかった
・参加者が少なかったのでもっと周知が必要ではないか
　保健・医療推進センターの教員、担当科目の学生の動員も必要ではと思いました
　健康科学の＋αの講義としてもよいのでは？
・ありがとうございました　学校に戻り、同僚にも話し伝えていきたいと思います
・今回受講者が少なかった
　もう少し広報活動、参加の要請への努力（参加対象を絞りすぎている）が必要と思う
・このテーマで期待したネット依存の学生への「対応策」について重点的に話をしてほしかったです
・ネット依存の理由は親のせい（親子関係）？だけ、という結論に、納得できません
　社会の責任はないのでしょうか？
　社会的にどのようにサポートしていけるかという根本的な部分を話してほしかったです
・依存症の治療として「ゲームをした時間を記録させることが有効な治療ではないか」との言葉が印象的だった
　このことを知れてよかった
・貴重なお話ありがとうございました。
　ネット依存に陥った学生の治療、周囲（親や相談員）がかかわったら良いか
　そこがもっと伺えたら良かったかなと思います
・不登校対策など佐賀大学の取りくみが分かりました
　大学生の不登校、うつに対して長崎大学でも＋αで何かできたらと思いました
・進化の過程で孤独という感情を獲得したことと依存の関わりをもう少し詳しく知りたかったです
・ASDとゲーム依存、ゲーム依存とアルコール依存との関わりが知れたのは良かったです

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

本講演会は，本学の教職員が，病気として認知される「ゲーム依存症」となった学生への教育上の対応を考える機会として開催した。

参加者からの評価については，回答者（７６．３％）のうち，「期待した内容でとても良かった」（４１．４％）と「まあまあ良かった」（５１．７％）を合わせると，回答者の９３．１％が「よかった」という結果であった。

具体的な対策を聞きたい，参加者が少なかったので周知，広報を考えるべきとの意見もあり，今後の検討課題である。

１１．実施代表者の連絡先

部　局：保健・医療推進センター　カウンセリング部門長
職　名：准教授　　氏　名：林田　雅希
e-mail：hmsk@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：２２１４

１２．申請者の連絡先

部　局：学生支援部学生支援課生活支援班
職　名：班長　　氏　名：平　崇人
e-mail：t-taira@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：２１０２